

令和 6 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

令和 6 年 7 月 29 日

学 長 殿

所属部局・職名
(所属・学年) 共生システム理工学類・教授

申請者名
(学会参加助成の場合は参加者名)
筒井 雄二

助成の区分 (該当するものに○)	学会参加助成
事業名	33rd International Congress of Psychology (ICP2024)
成果の概要	2024 年 7 月 21 日より 26 日までチェコ共和国のプラハで開催された第 33 回 国際心理学会に出席し、研究発表を行った。発表タイトルは「Children's Social-Emotional Development 11 Years After the Fukushima Nuclear Accident」であった。原発事故から 11 年が経過した 2022 年に福島市と原発事故の影響を受けなかった福島県以外の地域を対象に、1088 組の母と子のペアに質問紙調査を実施し、その結果に基づき主として原発事故の長期的な影響について論じた。特に今回の研究では、原発事故前後に生まれた子どもたちに、事故から 11 年が経過した時点でも事故と関連するとみられる心理学的影響が現れており、彼らの心理学的発達が原発事故によって阻害された可能性が高いことを示唆した。 本発表に対して日本の研究者はもとより、中国、韓国、中欧の研究者らと 2 時間にわたり議論することができた。特に海外の若い研究者の関心が高く、日本で起こった原発事故の心理学的問題について知りたかったという意見が複数あった。このことは、海外には福島事故の心理学的問題についてまだ十分に伝わっていないことを示すものであり、様々な機会を利用し研究成果を発信することの必要性を感じた。